

登校を渋り始めたら（中学校では・・・）

子どもが登校を渋るのは、親の養育態度や本人の性格傾向との関連も考えられますが、現実の登校しぶりの場面においては、学校のどこかに嫌なこと、不快な感情になることがあるからです。その要因を探ることより、まず、本人の学校生活をイメージすることが重要です。その子が、学校に身を置くことによって起こる憂うつや不安、恐れなど、本人が不快な感情と葛藤していることに注目し、ケアを図ることが求められています。

ケアの基本は、本人の中に起こっている不快感を増大させたり脅かしたりしないようにして、先生や家族、友達など関わる人との関係の中で安心感を得られるようにすることです。

そして、この不快な感情を取り除くために、一つは、その子どもの**耐性**（その場にふさわしい行動をとるためにしたいことを我慢する力と遠い目標達成のためにしたくないことでもあえてするように頑張る力）を育てること。もう一つは、**社交性**（うまく人とかわれる能力）を育てること。それらの力を育てることで、乗り越えられるようになっていきます。 ※出典「子どもの様子が気になった時の49の接し方」久芳美恵子・梅原厚子編著 合同出版

・「耐性が不十分」のために登校を渋るもの

丁寧な支援で小さな成功体験を積み重ねましょう

がんばれがんばれって
何を頑張ればいいんだよ

〇〇。



親が

- どんなことが学校で不快なのか聞き役に徹して聞く。
- どういう状態になったら「幸せ」か聞いてみる
- やれそうなことは何か考えさせ、親や先生にしてほしいことは何か聞いてみる
- 「がんばれ」ではなく、具体的なアドバイスをする。
- 小さな取り組みを絶えず応援し、小さな成功を喜び伝え合う

教師が

- 中学生段階は、先生からの直接援助より、仲間関係を作るように心がけ、その関係の中で成長できるように配慮する。
- 何かに取り組む子に「何かしてほしいことはあるか」「気になることがあったら声を掛けて」というようにいつでも協力する姿勢を伝える言葉を折々にかけていく。

・「社交性が未発達」のために登校を渋るもの

- ・仲間と気まずくなっちゃった
- ・約束を断りたいけど、どう断ったらいいかわからない
- ・話題が合わなくて、話しが続かない
- ・明るくしたいのに暗くなっちゃう
- ・無理やり自分をみんなに合わせているだけで楽しくない
- ・人前で話すと思うだけで緊張しちゃう
- ・自分の悪いことは謝って、あの人にも悪いことは謝ってほしいけど・・・
- ・年齢の違う人なら何でもないので、同年齢の人とはうまく付き合えない

〇〇〇



親や教師の支援でソーシャルスキルを身に付けさせましょう

親が

- ・困った状況がないか注意して見守り、声を掛けていく
- ・困惑している様子を感じたら、気持ちや事情を聞き、一緒に考える姿勢で接する
- ・子どもにとって心地よい関わり体験の相手となる
- ・挨拶の仕方、うなずき方、謝り方、折り合いのつけ方など人とかかわり方のモデルを示す
- ・子どもが適切な対応をしたときに、賞賛したり、ほめたりし、自信を持たせる

主に教師が

- ・様々な場面で先生方から積極的にかかわりをもつ、声を掛ける
- ・さりげない形で仲の良い友人を近くの座席に配置したり、本人を支える。友人を同じグループにして活動させるなどの配慮をする
- ・クラスの一員として受け入れられ、存在を認められる体験ができるだけ多く持てるような役割や場の設定を意図的に工夫する。

ある中学生の不登校のお子さんを持つ親との面談を通して・・・

登校を渋るようなサインを子どもが出した時、ある親は「出口のないトンネルの中でもがいているような気持ち」と話していました。そして、自分の気持ちを表現するのができない子どもに対して「何を考えているかわからない」と不満をぶつけます。親の中で、子どもに対する不満や不安が整理されてくると、これまでの家庭生活の中を振り返っていきます。そんな中で、頭ごなしに押さえてきたことや「駄目だ」「早くして」等親の関わりに目が行き、何かできることはないかとこれまでとは違ったかかわり方を考えて、必死に関わっていきます。すると、少しずつ子どもに変化が見え始め、自分の胸の内を話すようになったり、赤ちゃん返りをしたり、と親子関係に変容が見られるようになります・・・

子どもが出す不登校というサインを子どもを見つめ直すサイン、これまでの家庭内をより良くしていくためのサイン、親子関係を振り返るサインと捉えてみませんか。子どもと向き合う中で、「トンネルの中で出口の光が見えた時」子どもは、一歩ずつ歩み始めていきます。学校や相談機関等と相談しながら、お子さんが社会的自立に向けて歩めるように支援することが大切です・・・

来校日 6/18・25(金) 7/2・9(金)

予約する場合は、担任の先生をお願いします。